



1、縄文時代から弥生時代へ

前号では、縄文時代での信仰について執筆させていただきました。本号では、縄文時代から弥生時代へと新しい時代へ変化していく中で、信仰の対象や行為が、どのように変わってきたのか述べていきたいと思います。

約2300年前から約1700年前の約600年間を『弥生時代』と呼んでいます。縄文時代では、狩猟採集によって食料を確



図1 弥生時代の年表

保していましたが、弥生時代になると朝鮮半島から稲作栽培が伝わり、安定した食料を確保できるようになります。この頃になると金属製品や織物も伝わってきました。

また、安定した食料を確保する手段を確立していった結果、弥生時代では定住化が進みます。

2、弥生時代は何を崇拝するのか？

発掘調査の事例から、縄文時代、人々は、自然そのものを崇拝していたと考えられています。弥生時代になると、稲作による農耕が始まったことで、稲作の豊穰を願う信仰が加わってきます。

信仰に使用する道具も、銅製の武器が発掘調査で見られています。武器としての使用がみられず、恐らく、祭祀用として用いられていた可能性があります。

山口県や大阪府の遺跡では、鳥型の木製品が発見され、鳥取県では鳥の格好をした人物が描かれている土器が見つかっています。いずれも豊作を願う信仰を表すものだといわれています。

3、その他の信仰

大崎町では、益丸にある沢目遺跡から舟形軽石製品ふながたがるいしせいひんが発見されています。この石は、船の航海を祈願するために用いられたものと考えられています。近年の発掘調査で、弥生時代、大隅地域は、瀬戸内海や九州地域と深く交流していたことがわかっています。海上交易の重要性を示す、貴重な資料です。

このように、弥生時代になるとより生活の営みに直結する信仰になっていき、それに伴うさまざまな道具を用いるようになります。



写真1 沢目遺跡出土遺物

※大崎町中央公民館にて保管。ご見学希望の場合は社会教育課文化公民館係までお問い合わせください。

大崎町教育委員会 大野 泰輔